

成果指標				
成果指標	料金収入済額÷料金調定額＝徴収率(現年度分)			
指標設定の考え方	徴収率(年度比較)を向上させることで、安定した水道事業経営が保たれ、また、水道利用者の公平及び公正の確保ができる。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	97	97	97	97
実績	96.4	96.6	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	水道事業の経営は、料金収入で成り立っており、本事業は必要不可欠なもので重要な事業である。よって、確実な料金収入の確保に努めるとともに、滞納者に対しては、電話や文書での納付指導を行い、悪質滞納者については給水停止の執行を講ずるなど、厳格に対応することで、滞納者の減少と負担の公平性を確保することに繋がると考える。なお一層の取組みが必要である。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	水道事業経営の根幹である本業務は、必要不可欠なものであり、使用量の減少傾向にある現状において、確実な料金収入の確保に努めるとともに、新規滞納者を作らないなど適切な手段を講じ、悪質滞納者については、給水停止の執行を講じるなど、適格に対応することで、滞納者の減少と負担の公平性を確保することにつながるものと考えている。また、来年度からは、コンビニ収納等の新たな納付制度が導入されるため、更なる徴収率の向上を図りたい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	